

特別展

◆今和次郎 採集講義——考現学の今
今和次郎が関東大震災後の日本で創始した考現学は世相を徹底的に観察・記録する学問で、生活文化の変化を捉える視点は民族学の目指すものと同じ。考現学の原点とみんぱくでの展開を紹介し、モノと生活文化の関わりを考えます。
会期 6月19日(火) まで
会場 特別展示館

◆関連イベント

◆今和次郎が調査した民家の今——瀝青会による『日本の民家』再訪プロジェクト
今和次郎著『日本の民家』掲載の民家約40軒を90年後に再訪した調査から、私たちの住まいの方の変容をたどり、あわせて、生活空間をフィールドワークする作法について語り合います。
日時 6月9日(土) 15時～16時30分
会場 第5セミナー室
※参加無料、申込不要
◆みんぱくゼミナール
左のページをご覧ください。
◆みんぱくウィークエンド・サロン
詳細は本誌24ページをご覧ください。

企画展プレ展示
「写真で見る東日本大震災と被災文化遺産のレスキュー」
9月開催予定の企画展「記憶をつなぐ——津波災害と文化遺産」で使用予定の写真パネルを事前に公開し、展示の一部を紹介します。
会期 8月21日(火) まで
会場 企画展示場A

研究公演

「忘れない絆、絶やさない伝統——震災復興と文化継承を願って」
東日本大震災の影響で存続が危ぶまれた三陸地方に伝わる鹿(しし)踊りと日本に根付いた阪神地方の中国獅子舞・龍舞を通して、震災復興と伝統文化の継承を考えましょう。
日時 6月9日(土) 14時～16時30分
会場 玄關前広場
※雨天の場合 講堂(定員450名)
※参加無料、申込不要
※公演終了後、本館1階エントランスホールでワークショップを行います。
※6月10日(日)には、神戸の鉄人28号モニメント前で公演を開催します。
お問い合わせ先
広報企画室 企画連携係
電話 06・6878・8210

夏のみんぱくフォーラム2012
知りたい、触れたい、調べたい
——「みんぱく流」探究のすすめ
情報社会といわれる今日、博物館は情報をあつめ、発信するためのメディアとして期待されています。新設された探究ひろばを中心にしながら、みんぱくの情報を活用した知的探究の時間をともに過ごしましょう。
会期 6月24日(日)～8月25日(土)

◆関連イベント

◆講演+ワークショップ
連続講座「博物館にさわる」(全6回)
「さわる」をテーマにしてユニークな研究・実践に取り組んでいるゲストを招き、幅広い角度から「さわる展示」の魅力と可能性を伝えます。
開催日 6月30日(土)、7月14日(土)、16日(月祝)、28日(土)、8月11日(土)、25日(土)
各日13時30分～16時(開場13時)
会場 第5セミナー室(定員100名)
※参加無料、申込不要
お問い合わせ先
広報企画室 企画連携係
電話 06・6878・8210
※この他にもイベントを予定しています。お楽しみに!

音楽の祭日2012 in みんぱく
1982年にフランスで、夏至の日にみんなが音楽を楽しむ「音楽の祭典」がはじまりました。みんぱくでも、10年連続して世界のさまざまな楽器を使った音楽で「音楽の祭日」を祝います。
実施日 7月1日(日)
時間 10時15分～16時45分
会場 特別展示館1階および本館1階エントランスホール
※参加無料(当日は無料観覧日です)、申込不要
お問い合わせ先
情報企画課 音楽の祭日担当
電話 06・6878・8532

●無料観覧日のお知らせ

7月1日(日)は本館展示を無料で観覧いただけます。ただし自然文化園(有料区域)を通行される場合は、入園料が必要です。
*電話でのお問い合わせの受付時間は9時から17時(土日祝を除く)です。

刊行物紹介

■平井京之介 編
『実践としてのコミュニティ——移動・国家・運動』
京都大学学術出版会 定価:3,990円



グローバル化は伝統的生活を揺さぶる一方、新たな共同の実践を生み出している。移民ネットワークや自助グループ、人権・環境NGO等、新しい形の多彩なコミュニティをレポートし、その人類学的意味を析出する民族誌。

■陳天璽・近藤敦・小森宏美・佐々木てる 編著
『越境とアイデンティフィケーション——国籍・パスポート・IDカード』
新羅社 定価:5,040円



オリンピック参加や仕事など、目的に合わせて移住し国籍を変える。そんな越境の時代、人は誰として生きるのだろうか。法律、生活実践、そしてパスポートなど身分証明を通し、グローバル化する今、人と国籍の関係を問う。

■『民博通信』

2012 No.136 (3月発行)
評論・展望
経験を受け継ぐということ——マダガスカル漁村から
飯田 卓

みんぱく出版入手方法については
広報係にお問い合わせください。
電話 06・6878・8560

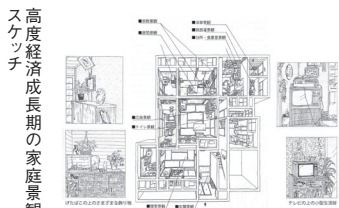
みんぱくゼミナール

会場 国立民族学博物館 講堂
時間 13時30分～15時(13時開場)
定員 450名(当日先着順)
参加費 無料(展示をご覧になる方は、観覧料が必要です)

第409回 6月16日(土)

【特別展関連】

生活財の考現学——高度経済成長期の家庭景観
講師 栗田靖之(国立民族学博物館名誉教授)
定田正博(株式会社シー・ディー・アイ代表取締役)



今和次郎の「もちもの一切しらべ」を高度経済成長後の家庭の生活財に適用した栗田靖之名誉教授たちの研究は、家庭景観という視点で生活文化の現在と将来を見通した論考で、日本生活学会第5回「今和次郎賞」を受賞しました。共同研究者である定田正博氏とともに、当時の生活文化と現在について考えます。

第410回 7月21日(土)

【探究ひろば関連】

情報アクティビスト宣言——市民の知的探究と博物館
講師 飯田卓(国立民族学博物館准教授)



みんぱくは、古いものを展示するだけでなく、さまざまな読みものや映像資料をも提供する総合メディアです。その役割は、インターネットが普及したこんにちどのような意味を帯びているのでしょうか。とくに近年利用が盛んなインターネット上の双方向メディアを意識しながら、市民レベルの知的探究と博物館の役割を考えます。

友の会

友の会講演会(大阪)

会場 国立民族学博物館 第5セミナー室
定員 96名(当日先着順、会員登録必須)

第409回 7月7日(土) 14時～15時

「みんぱくコレクションをかるる」
蚊帳に見えない蚊帳のはなし
講師 白川千尋(国立民族学博物館准教授)

ラオスの蚊帳は「虫除け」というだけではなく、さまざまな機能があり、女性の嫁入り道具にもなっています。この蚊帳との出会いは異文化にふれる醍醐味を教えてください。民博收藏の美しい蚊帳をじっくりにお見せしながらお話しします。

第410回 8月4日(土) 14時～15時

ビルマ/ミャンマーの「絆」の力
講師 田村克己(国立民族学博物館教授)

ビルマ(現国名ミャンマー)は、今もつとも注目をあびている国のひとつです。ここでは人と人とのつながりがとても大切です。ビルマの人間関係のあり方をおしてこの国の魅力を紹介し、私たち自身の社会も振り返って考えてみましょう。

巡回展関連講演会

7月14日から9月2日まで石川県立歴史博物館にて開催の巡回展「マンダラーチベット・ネパールの仏たち」関連の講演会です。

7月14日(土) 13時半～15時

「般若心経」と色即是空
講師 立川武蔵(国立民族学博物館名誉教授)

「般若心経」はよく読まれている経典も珍しいでしょう。この中の「色即是空、空即是色」という句はインド、チベット、中国、日本において実にさまざまに解釈されてきました。その違いはそれらの国の仏教の特質を映し出しているともいえます。この句の解釈史を通じて日本仏教における空思想の特質を考えてみます。

※「般若心経」のサンスクリーンと漢訳の「吟詠」も試みる予定です。

会場 石川県立歴史博物館学習ホール
定員 80名(当日先着順)
参加費 無料

国立民族学博物館 ミュージアム・ショップ

電話 06-6876-3112
FAX 06-6876-0875
e-mail shop@senri-f.or.jp
水曜日定休

ウェブサイトもご覧ください。
オンラインショップ
「World Wide Bazaar」
http://www.senri-f.or.jp/shop/

オリジナル商品「みんぱくクッキー」

民博ミュージアム・ショップのオリジナル商品「みんぱくクッキー」ができました。
世界各地の仮面のイラストを配したパッケージの中には、ひまわりの種入りと、ミルクティー味の二種類のクッキーが入っています。
このクッキーの製造者「ぶくぶくワールド」は、1988年より大阪府吹田市でクッキーをつくっています。「ぶくぶくワールド」のクッキーへのこだわりは、厳選された材料であり、障害者の側から食の安全に取り組むことで、社会のあり方、弱者、少数の視点、命の大切さなどを考え、発信していきたいとの想いがあります。原材料の小麦粉は国産100%、牛乳やバターは北海道産。オーガニック認定のひまわりの種や、無化学農薬、無化学肥料栽培の紅茶葉などを使用した、身体にやさしく、懐かしい味のするクッキーです。パッケージのデザインは、武庫川女子大学生活環境学部情報メディア学科の学生さんたちの協力で、民博をイメージして作成しました。



みんぱくクッキー (ひまわりの種入り) 40gと
ミルクティー味 40gの2袋入り
450円(税込)